

新型コロナのワクチン被害は“薬害” 体調不良に悩む患者と遺族が国を提訴 厚労省“重大な懸念は認められない”

4/17(水) CBCテレビ

(若狭敬一キャスター)

新型コロナウイルスワクチンの副反応問題について、大きな動きがありました。

東京で大石さんが取材をしています。

(大石邦彦アンカーマン)

はい、東京地方裁判所前に来ています。新型コロナワクチンの接種が本格的に始まってから3年が経過しました。国民の約8割が接種したと言われているこの新型コロナワクチンに関して、きょう(4月17日)は大きな節目の日になるかもしれません。

接種後の体調不良に悩む患者と死亡者の遺族がですね、コロナワクチンは薬害だとして慰謝料などを求め、国を訴えました。

17日午後1時ごろ、東京地方裁判所前に集まったのは、新型コロナワクチンの接種後、長期にわたり体調不良に悩む患者と、亡くなった人の遺族です。

(接種後 息子を亡くした女性)

「(亡くなったのは)19歳の息子です。ワクチンを打たせてしまったことへの後悔と申し訳ないという思いを持ちながら、きょうまで来た」

患者の会と遺族会、あわせて13人が国を相手取り提訴しました。

請求内容は、1人あたり慰謝料などの損害賠償300万円を支払うことなどで、訴えにはワクチンによる健康被害を「薬害」と認め、謝罪することも含まれています。

(ライトハウス法律事務所 青山雅幸弁護士)

「今回の集団訴訟は、国の不正義を問い、それを正すための訴訟です」

(接種後 夫を亡くした河野さん)

「私の主人は生きていたかったと思います。主人は本当に無念だったと思います。本当に国は責任を取ってください」

新型コロナワクチンはこれまでに4億3600万回の接種が行われ、3万7000件あまりの副反応、2193人の死亡事例が報告されています。

しかし、国は一貫して、接種に特段の問題はないという立場をとっていて、裁判はワクチンの副反応を巡り、全面的に対決する形となります。

■下半身不随になってしまった男性「国に薬害を認めさせたい一心で…」

(大石邦彦アンカーマン)

これまで各地で、個人で訴訟ということはあったと思うんですが、集団訴訟という形はこれが初めてかと思います。そして、地裁前には、原告団のお2人にお越しいただきました。

患者の会から、接種後に下半身が不随になってしまった、名古屋市在住の櫻川博文さんです。きょうここまで来るまでは長かったですか？

(接種後 下半身不随に 櫻川博文さん)

思い返してみますと、長かったですね。

(大石アンカーマン)

どんな思いで過ごしていましたか。

(櫻川さん)

関心が薄くなって。約2年と半年ぐらい経過しているんですけども、やっぱりリスク面を全然、公にしなかった国に対して、薬害を認めさせたい一心でこれまで頑張ってきました。

(大石アンカーマン)

そして、遺族会からは東正秋さんにお越しいただきました。39歳の息子さんを亡くされたということですけども、きょうこの日を迎えるまでいろいろご苦労はありましたか。

(接種後 39歳の息子が死亡 東正秋さん)

そうですね、短くもあり長かったですかね。月命日に、必ず息子の墓参りをするんですけど、全く報告できないんですよ。そういうことからすると…結構長かったと思いますね。

■息子を亡くした男性「いかにワクチンを止めるか、これに尽きます…」

(大石アンカーマン)

ここまで、今どんな状況なのか、まとめました。総接種回数は4億回を超えています。接種後の副反応疑い報告は3万7000件を超えているんです。接種後の死亡疑い報告は2193件となっています。

(若狭敬一キャスター)

初の集団訴訟となっているんですが、この裁判のポイントはどんな所になりそうですか。

(大石アンカーマン)

原告団は、患者さんと遺族13人になります。求めていくことはまず、薬害と国に認めさせたい、謝罪をさせたい、そして1人当たり300万円の支払い、これを求めています。この300万円って少ないかもしれませんが、これは実は原告団の皆さんというのは、国の救済制度で、死亡一時金や医療費を受け取っています。ただ人によっては、足りないという方がいらっしゃる。特に後遺症が残った方は、医療費が足りないんですよ。なので、この300万円というのは今スタート時点ではこれですけども、今後もっと増えていく可能性があるということなんです。

(若狭キャスター)

ただ薬害となりますと、国はこのワクチン政策が誤っていたということを認めることになりますから、ハードルが高いようにも思いますが、いかがでしょうか？

(大石アンカーマン)

そうですね、国はこれまで一貫して“重大な懸念は認められない”というスタンスなんです。この溝をどう埋めていくのかというのが今後ポイントになりそうです。

それでは最後に、患者の会と遺族会のお二人にお話をうかがいます。国に訴えたいことはなんですか？

(接種後 下半身不随に 櫻川博文さん)

まずですね、きょう足を運んでいただいたメディアの方々はその場限りにせず、ぜひとも報道していただいて公にしてほしいです。そして、国が動かざるを得ない状況まで持ってほしい。そして薬害を認めてほしいです。

(接種後 39歳の息子が死亡 東正秋さん)

やっぱり、いかにワクチンを止めるか、もうこれに尽きます。きょうの記者会見でもね、メディアの方が来ていただきましたんで、必ずや放映していただいて、国民の皆様、そして厚労省にぜひ届けていただきたいと思います。

(若狭キャスター)

今後の訴訟というのは、どのように進んでいく予定でしょうか？

(大石アンカーマン)

今後、原告団1人1人が法廷の場に立って、何があったのかっていうのを語っていくと思います。そしてスケジュール感としては3年から5年ぐらいこの裁判がかかるんじゃないかというふうに青山弁護士も話しておりました。今後一体どうなるのか、我々も行方をしっかりと見守っていきます。CBCテレビ